

受容主体の比喩性把握における指標と要素結合の影響

The effect of metaphor indicators and semantic valence on the metaphorical construal by readers

加藤 祥[†], 浅原 正幸[‡]
Sachi Kato, Masayuki Asahara

[†] 目白大学, [‡] 国立国語研究所
Mejiro University, National Institute for Japanese Language and Linguistics
s.kato@mejiro.ac.jp

Abstract

How do metaphor indicators and semantic valence affect metaphorical construal? To address the research question, we evaluated the figurative ratings for similes (with metaphor indicators) and their semantic valence (without metaphor indicators) by crowdsourcing. We investigated the differences in figurative ratings between similes and their semantic valence. The result shows that the metaphorical construal by readers is affected not by their semantic valence but by the wider contextual information. Furthermore, the result suggests that the effectiveness of metaphor indicators on metaphorical construal depends on the semantic valence types.

Keywords — Metaphor, Simile, Indicators, Semantic valence, Crowdsourcing

1. はじめに

受容主体が、ある表現を「比喩である」と把握する際、比喩表現であると判定するために何らかの要素が着目されていると考えられる。すなわち、ある表現が比喩表現と読み取られる場合、直喩であれば、比喩指標要素のような「何らかの言語形式」によって比喩表現であるということが把握され、比喩性の解釈につながる可能性がある。また、隠喩であれば、要素の結合が字義通りに解釈ができないことや、喩辞と被喩辞の関係が現実的ではないこと（要素結合の慣用からの逸脱）から、比喩表現の解釈につながる可能性がある。このように、比喩表現の有する何らかの要素が着目されていると考えられる。

この比喩指標要素と要素結合の逸脱はどのように比喩性の把握に影響を及ぼしているのだろうか。本稿では、言語の受容主体（読み手）が比喩性を把握するにあたり、比喩指標要素と要素の結合がどのように影響するのかを確かめる。そこで、比喩指標要素と要素の結合のどちらをも含む用例を用い、用例全体（比喩指標要素を含む直喩）と要素の結合（比喩指標要素を含まない隠喩）のそれぞれについて、比喩性の評定を調査した。具体的には、比喩指標要素を含めた用例全体

（原文）と文脈を排除した要素の結合の2種類を提示し、Yahoo! クラウドソーシングにより比喩性の評定を収集し、差について検討した。その結果、要素結合そのものの影響は弱く、広く文脈が比喩性の把握に関わっている可能性が見られた。また、擬人・擬生・擬物・具象・抽象・その他の転換などの結合の種類ごとに傾向を調査した。その結果、結合の種類ごとに、比喩性の把握における比喩指標要素の有用性が異なるとわかった。

2. 関連研究と本研究

中村(1977)[1]は、受容主体の比喩性把握として、言語形式(A型把握)、言語単位の結びつきにおける慣用からの逸脱(B型把握)、言語的な意味と個別的な意味との対応における慣用からのずれ意識(C型把握)を挙げている。それぞれ、指標比喩(直喩)、結合比喩(隠喩など)、文脈比喩にあたる。これらの把握は同表現においていずれか一つのみということではなく、たとえばA型把握とB型把握は同時に存在するものであり得る。しかし、比喩性があると把握する場合に、いずれの型の把握が最も有用であるのか、あるいは受容主体がどのような要素から比喩性を強く読み取る傾向があるのかという点は明らかではない。

中村(1977)[1]は、A型把握における言語形式を整理して、1,617種類の比喩指標要素を挙げている。加藤・浅原(近刊)[2]では、当該表現を偽と示す指標を文脈上広く収集し、さらに300種類以上の比喩指標要素例を追加取得した。Kikuchi, et. al. (2019)[3]は、中村(1977)[1]の比喩指標要素に基づき、コーパスから827例の指標比喩を収集し、喩辞と被喩辞、字義通りの解釈ができない要素の結合(隠喩に該当する)などの情報を付与した。本研究のA型把握の検討は、これらの指標比喩データに基づく。

B型把握の研究に関連し、喩辞と被喩辞の組み合わせにおける親密度や類似度により、直喩と隠喩のいづ

れが選好されるかという観点での調査 (Chiappe and Kennedy 2001[4], 楠見 2005[5], 岡ら 2019[6]など) は多い。これらの調査結果から、隠喩 (B型把握) のみでは比喩性の認識が不足する場合に、指標 (A型把握) の求められる傾向が予測される。しかし、言語形式 (指標) は、要素を直接に結合させる特定の指標 (「AのようなB」「AみたいなB」など) に限定されるのではないため、Gibbs(2017) [7]は「A is B」と「A is like B」のみに焦点を当てた議論になりがちであると指摘する。様々な「何らかの言語形式」を含む実際の比喩表現において、指標として機能する要素が何であるのか、また、「何らかの言語形式」の有無が比喩性の認識に関わるのかという点に疑問が残る。

小松原(2016) [8]は、「まるで」が加わることで「よう」が比喩指標と定まる例を示し、指標が増えるごとに「直喩性」が増加すると指摘する。実際に、「まるで」「よう」の二つの指標を含む用例群の調査では、複数指標である原文が「自然さ」「適切性」「比喩性」において最も高い評定値となり、意味的な「まるで」と「よう」間の距離や「まるで」のみが比喩表現に用いられる場合の文法的制約などによって指標を減らすことはしにくく、指標が消去された隠喩形式で最も「比喩性」評定の下がる傾向が調査されている (Kato. et. al., 2020 [9])。ただし、様々な比喩性の指標となる「何らかの言語形式」がどれだけあれば比喩性の把握に有効なのかは明らかでなく、指標比喩と考えられる様々な用例を用いた検証が求められよう。

本稿は、様々な言語形式を有する比喩表現の用例において、読み手が表現の比喩性を認識するにあたり、指標として機能する「何らかの言語形式」が比喩性の把握に有用なのか、あるいは比喩表現の中心となるような言語単位の結びつきこそが有用なのかを確かめたい。また、比喩表現の中心となる隠喩 (言語単位の結びつきが慣用から逸脱しているということ) の比喩性が、指標によって把握されやすいとすれば、どのような指標が有用なのか確かめることで、比喩性の把握に有用な「何らかの言語形式」の収集が可能であろう。「何らかの言語形式」の整理を目指したい。

3. クラウドソーシングによる評定調査

いわゆる直喩の指標と、隠喩が成立する要素の結合のいずれが比喩性の把握に有用であるのかを調査するため、直喩形式の比喩表現を含むと判断された用例において、隠喩 (言語単位の結合が慣用から逸脱してい

る) が同時に成立している例を収集し、比喩性が認識される場合に、隠喩にあたる要素の結合の比喩性が特に有用なのか、あるいは言語形式が有用なのかを調査した。

調査対象として、Kikuchi, et. al. (2019) [3] が『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下 BCCWJ) コアデータより収集した指標比喩用例 (言語形式を含む) から、言語単位の結びつきが慣用から逸脱していると判断される結合 (隠喩) を含む 777 例²を抽出した。

- (1) まるで孔雀が羽を広げたみたいにダックスの尻尾
ってきれいでしょう？

【結合: 尻尾がクジャクの羽】

(サンプル ID : OC12_02735)³

すなわち、(1)であれば、「まるで～みたいに」という指標比喩の言語形式 (直喩形式の指標) を含むと同時に、「(ダックスの) 尻尾」と「孔雀が羽 (を広げた)」という要素の結合 (隠喩に該当する部分) が含まれる。但し、用例中の指標については、どこまでが比喩性の把握に有用な言語形式であるか不明な用例も多い。

- (2) 恵さんは、その一万円札を見つめながらつぶや
く。「あのとき、ほんとに自分が持っているなか
でのすべてを、わたしにくれたっていうふうに思
っているので、これはもう一生、お金っていうん
じゃなく、自分の宝物としてずっと使わずに持っ
ていたいですね」

【結合: 一万円札が宝物】

(サンプル ID : PB1n_00024)

たとえば(2)では、「一万円札 (お金)」と「宝物」が結合していることにより比喩性が判断されていたが、「とする」「いうんじゃなく」「これは」「っていうふう」に思っている」などの様々な表現が比喩指標として機能している (加藤・浅原, 近刊 [2]) 可能性がある。そこで、比喩指標要素と定義される表現を1つ以上含む

² Kikuchi, et. al. (2019)[3] の 827 例のすべてに比喩的な結合が含まれるとは限らない。例えば、「空気のような存在」「どこかこの世ではない場所」のような提喩の例などで用例中に喩辞と被喩辞が明示されていないため結合が取得不能とされた例があった。このため、本データにおいて要素の結合が付与された用例 777 例のみを調査対象とした。

³ 【結合】は注目している字義どおりの解釈ができない表現を表す。サンプル ID は BCCWJ 中の識別子。

用例全体を、広く「何らかの言語形式」を含む指標
 比と考えることにした。

また、用例に含まれる要素の結合は、用例によって
 3語～27語と語数のばらつきがあるとともに、1用例
 中に複数の結合（最大3件）が含まれる場合もある。
 777用例からは、意味的な慣用（原義・基本議的な意
 味）から逸脱していると判断された要素の結合として、
 計935件が抽出された。

調査は、777用例と935件の合計1,712件について、
 「比喩性」の判断（「比喩表現であるか」）を問うた。
 また、結合のみの場合は文脈が与えられないため、表
 現の「新しさ」が際立つことや、表現の「わかりやす
 さ」の減ることが想定されたため、表現の「新しさ」
 と表現の「わかりやすさ」についてもあわせて質問項
 目とした。提示文には調査対象の用例と要素の結合の
 ほか、約5,000件の国語辞書例文をフィルターとして加
 え、実験協力者が比喩表現についてのみ判定するの
 ではないようにした。

実験協力者は、Yahoo! クラウドソーシングを用いて
 募集し、1例または1件につき各20名以上から回答を
 得た。評価は、0から5の6段階で付与された。

4. 結果：比喩性判定における指標の有無と 結合数の影響

要素の結合がどの程度「比喩性」の判定に関わっ
 ているのか、用例全体（直喩形式）と要素の結合（隠喩
 形式）の評価差を算出した。また、「新しさ」・「わかり
 やすさ」の観点についても評価差を算出した。4.1節で
 は、指標有の用例全体と指標無の要素結合との比喩性
 の評価差から、指標の有効性について検討する。4.2
 節では、用例に含まれる要素の結合数（隠喩数）の影
 響を確認する。

4.1 指標の有無の影響

まず、指標の有無が比喩性判定に与える影響を調べ
 る。用例全体（直喩形式）と要素の結合（隠喩形式）
 のそれぞれの評価平均を表1に示す。用例全体のほう
 が、平均的に若干いずれの評価も高い傾向にあった。
 本調査の結果においては、「何らかの言語形式」があっ
 たほうが要素の結合（隠喩形式）のみよりも「比喩性」

が把握しやすいと言えよう。但し、隠喩形式では文脈
 がないために「わかりやすさ」が低くなっており、わ
 かりにくさによって「比喩性」が判定しにくいことが
 考えられる。「新しさ」の判定については、そもそも評
 定値が低く、表現に「新しさ」を感じる数が少ない
 ようであった。たとえば、「新しさ」の評価値が(3)は
 0.65（本調査の最低値）で、「手にする」という慣用表
 現である。(4)は0.68で、「教訓とする」は提喩の例で
 ある。

(3) 1回の公演で手にするお金は、交通費約2千円。

比：0.71，新：0.65，わ：4.00

〔結合：お金を手にする〕

比：1.90，新：1.30，わ：4.40

（サンプルID：PN5a_00005）⁵

(4) すべての都道府県で、阪神・淡路大震災を教訓とし
 た見直しを行っているが、

比：0.75，新：0.68，わ：4.11

〔結合：震災が教訓〕

比：2.20，新：1.75，わ：4.15

（サンプルID：OW6X_00040）

比喩表現用例は慣用的な表現や、一般に比喩表現と
 判断しにくい提喩なども広く含むため、特に「新しさ」
 が低い用例は、「比喩性」についても低く評価される傾
 向が見られる。とはいえ、結合のみ（隠喩形式）より
 も「何らかの言語形式」を伴う用例全体（直喩形式）
 のほうが、「比喩性」が高いと判定される傾向が見られ
 るため、比喩性の把握において、比喩指標が有用な可
 能性がある。

表1 評価平均

	比 喩 性	新 し さ	わ か り や す さ
用例全体（指標有）	2.74	1.97	3.06
結合（指標無）	2.53	1.73	2.70
差分（指標有-指標無）	+0.21	+0.24	+0.36

⁴ 用例数777例について、結合数1の用例633例+結合数2
 の用例128例（128×2）+結合数3の用例16（16×3）=937
 結合から重複する（慣用表現の）結合2結合を除いた935
 結合。

⁵ 用例下の「比」・「新」・「わ」は、用例の「比喩性」・「新し
 さ」・「わかりやすさ」の評価の平均値を表す。結合下の「比」
 ・「新」・「わ」は、結合の「比喩性」・「新しさ」・「わかりやす
 さ」の評価の平均値を表す。

4.2 要素の結合数（隠喩表現数）の影響

用例には、複数の比喩表現（要素の結合）が含まれることがある。複数の結合が含まれている用例は、用例全体の「比喩性」が高く評定される可能性が考えられた。そこで、用例中の結合数別に、結合数別の評定差（用例全体-結合）平均を表2に示す。

結合を2つ含む用例では、「比喩性」が高く判定される傾向が確認されている。

- (5) いまの日本にも、江戸時代の私塾のごとく師弟関係が親子のような濃密な教育をつくることは可能だろうか。

比：3.46, 新：1.73, わ：3.00

〔結合：師弟が親子〕

比：1.20, 新：1.50, わ：3.00

〔結合：教育が濃密〕

比：1.45, 新：2.50, わ：2.60

(サンプルID：OY14_02912)

「比喩性」において用例全体のほうが各結合の平均よりも大幅に高い(+2.13) (5)のような例を見ると、指標と考えられる「ごとき」「ような」なども複数含まれており、結合というよりも複数の比喩表現が含まれることが明示的であり、比喩性の判断が高まったものと考えられる。

表2 結合数別評定平均

結合数	用例数	用例全体-結合 (指標 有-無)		
		比喩性	新しさ	わかりやすさ
1	633	+0.15	+0.22	+0.35
2	128	+0.58	+0.43	+0.45
3	16	+1.11	-0.45	+0.38
計/平均	777	+0.21	+0.24	+0.36

結合を1つのみ含む用例（指標の有無のみの影響が考えられる）については、表現の「わかりやすさ」において、若干の指標の影響が見られるものの、「比喩性」の把握においては大差が見られない傾向にあるといえる。(6)は、特に用例全体と結合のみの評定差が少ない(+0.01)例であるが、「石橋を叩く」という慣用的な表現を含む。このほか、「バカにする」「口にする」な

どをはじめ、慣用的と考えられる表現が含まれる例(109件)では、「新しさ」が平均+0.007, 「わかりやすさ」が平均+0.03と、指標の有無の影響がほとんど見られない傾向が確かめられた。

- (6) 知らないもの同士、特に個人間のやり取りですから、石橋は叩き過ぎるぐらいが丁度いいと思います。

比：3.57, 新：1.97, わ：3.20

〔結合：石橋を叩くやり取り〕

比：3.45, 新：1.45, わ：2.55

(サンプルID：OC14_00035)

また、結合を3つ含む用例については、用例数が16件と少ないが、「新しさ」において、指標のない結合の平均評定値が、用例全体よりも高いという結果が見られている。たとえば、(7)は、「黒川(温泉郷)」が「生命体」、「黒川(温泉郷)」が「心を癒す」、「黒川(温泉郷)」が「理想郷」という3つの結合が指摘されている。(7)全体では、「黒川(温泉郷)」が「生命体のように心を癒す理想郷」というまとまりになっていることで、「新しさ」が減じた(-0.21)可能性がある。指標らしい言語形式が「よう」1つのみであるために、すべての結合が、読み手(実験協力者)に比喩表現と判断されない可能性も考えられる。

- (7) 黒川全体が一つの生命体のように都会人の心を癒してくれる理想郷となったのだ。

比：3.61, 新：2.64, わ：2.81

〔結合：温泉郷が生命体〕

比：3.15, 新：2.70, わ：1.50

〔結合：温泉郷が心を癒す〕

比：1.35, 新：0.60, わ：3.90

〔結合：温泉郷が理想郷〕

比：2.70, 新：2.10, わ：3.15

(サンプルID：PM11_00207)

なお、最も「新しさ」の減じた(-0.75)用例は(8)であったが、(7)と同様の傾向が見られている。

- (8) 砂の奥底深くに吸い込まれ、埋もれていくような感覚にとらわれることもないではなかったが、それでも、志摩子はしっかりと目を見開き、

比：3.20, 新：2.47, わ：2.77

〔結合：砂に吸い込まれる感覚〕

比：3.10, 新：1.45, わ：3.20

〔結合：砂に埋もれる感覚〕

比：3.65, 新：1.65, わ：3.35

〔結合：感覚に囚われる〕

比：1.45, 新：2.15, わ：3.10

(サンプルID：PN5b_00017)

以上の結果から、結合を複数含む用例は、「比喩性」が高く評定される傾向が確認された。しかし、(7)(8)のように、結合単位に比喩指標要素や「何らかの言語形式」が必ず付されているのではないため、評定の平均値のみからは指標と結合のどちらが有用であるのか判定し難い。また、複数結合を含む用例の場合、結合にはいわゆる隠喩ではない比喩表現も含まれる。指標がどのような比喩表現の認識に影響を及ぼすのかという点が明らかではない。

以降では、結合の種別（隠喩（擬人化や具象化などの下位分類を含む）・換喩・提喩など）が指標の有無とどのように関わるのかを確かめ、さらに、種類別に用例の分析を試みる。

5. 結果：比喩種別に基づく検討

5.1 比喩種別（と隠喩の下位分類）

本節では比喩の種別（結合種別）に基づいた検討を行う。Kikuchi, et. al. (2019)[3] が付与した比喩の分類と隠喩下位分類（中村(1977)[1]の指摘した種類に基づく）を使用する。比喩表現は隠喩（下位分類を後述する）のほか、換喩・提喩・文脈・慣用・その他・指標外比喩に分類した。隠喩については下位分類として、擬人・擬生・擬物・具象・抽象・その他の転換に分類した（隠喩であることを表すためにM：を付す）。

以下の例はそれぞれの隠喩の下位分類に該当する用例を抜粋したものである。

a. 擬人化（物などを人に喩える）

例)「拡充を歓迎する」「方針案は(中略)約束する」

b. 擬物化（人を物などに喩える）

例)「浮かぬ顔だった」「家族の柱を失った」

c. 擬生化（物などを動植物に喩える、活喩、準擬人化）

例)「才能を生かす」「経済成長」

d. 具象化（抽象物を具体物に喩える）

／抽象化（具体物を抽象物に喩える）

例)「ルールをゆがめる」「救済の流れ」「可能性が高

い」

e. その他の転換（上記外の別種に喩える）

例)「シナリオを描く」「透明感のある歌声」「樹木が竜」

以下では、上記の分類に基づいた検討を行う。

5.2 節では結合の比喩種別ごとの平均評定値を確認する。5.3 節では、1 結合のみを持つ事例について、指標の有無の評定差を比喩種別ごとに確認する。5.4 節では複数結合をもつ事例について確認する。5.5 節では「比喩性」、5.6 節では「新しさ」「わかりやすさ」に対する指標の影響について考察する。

5.2 結合の比喩種別ごとの評定

935 件の結合種別ごとの評定平均の分布を表 3 に示す。うち、603 件と頻度の高い隠喩については下位分類（擬人・擬牲・擬物・具象・抽象・その他の転換：表中「M：」とする）を示した。

「慣用」は辞書に記載があるなどで慣用表現と判断されたもの、「その他」は例示や指示など比喩とは判断されなかった例である。また、用例文中に含まれてはいるものの比喩指標に関わらない結合は「指標外」としてある。

表 3 結合（指標無）の比喩種別ごとの評定値

比喩種別	結合数	比喩性	新しさ	わかりやすさ
M: 擬人	51	2.51	1.78	2.42
M: 擬物	40	2.85	1.72	2.64
M: 擬生	41	2.73	1.83	2.76
M: 具象	165	2.36	1.74	2.73
M: 抽象	3	2.90	1.70	1.20
M: その他	303	2.67	1.75	2.57
(隠喩小計)	(603)	(2.59)	(1.75)	(2.61)
換喩	36	2.27	1.81	2.73
提喩	100	2.60	1.80	2.67
文脈	8	1.88	1.80	3.48
慣用	134	2.20	1.61	3.12
その他	51	2.75	1.66	2.67
指標外	3	2.92	1.70	2.52
総計	935	2.53	1.73	2.70

これらの結合の種別によって、各評定の平均値に大差が見られるのではないが、「擬物」化や「擬生」化などの隠喩では、一般に比喩表現であることが読み取りやすく、「比喩性」が高めに把握されるという傾向がある。また、「慣用」表現は「わかりやすさ」が高くなり、「新しさ」が低いという評定傾向が見られている。

5.3 指標の有無についての比喩種別ごとの評定差

次に、これらの結合の種別が指標の有無とどのように関係するのかを確かめておく。表4は、表3の種別について、用例中に結合が1つのみ含まれる（指標の有無のみの差が判定可能と考えられる）633例について、指標の有無について評定差を算出した（指標有り：用例全体の評定値から、指標無し：結合のみの評定値を引いた）表である。

表4 結合種別の指標有無評定差（1結合）

種別	件数	比喩性	新しさ	わかりやすさ
M:擬人	32	<u>0.51</u>	0.39	<u>0.68</u>
M:擬物	29	0.23	<u>0.46</u>	0.40
M:擬生	25	0.16	0.26	0.32
M:具象	88	<u>0.01</u>	0.13	0.17
M:抽象	3	<u>-0.01</u>	<u>0.76</u>	<u>1.29</u>
M:その他	208	0.28	0.32	<u>0.54</u>
換喩	22	0.32	0.07	0.26
提喩	67	0.21	0.18	0.37
文脈	6	0.37	0.01	-0.38
慣用	108	<u>-0.17</u>	0.01	-0.03
その他	42	0.13	0.30	0.47
指標外	3	0.66	0.78	0.42
総計	633	0.15	0.22	0.35

5.4 複数結合の比喩種別ごとの評定値

結合数が多い場合についても同様に集計を行った。表5には、2つの結合を含む用例について、指標有り：用例全体の評定値から、指標無し：結合のみの評定値を引いた）一部の結果（高頻度）を示す。

組み合わせにおいて「慣用」の影響が強い傾向（比：-0.20, 新：-0.09, わ：+0.72）や、「その他の転換」と

「提喩」のようにいずれも比喩性に気づきにくい結合の組み合わせにおいて指標が「比喩性」に強い影響を及ぼす（比：+1.07）ことなどが確かめられた。

表5 2結合以上の種別組み合わせの評定値（抜粋）

種別	件数	比喩性	新しさ	わかりやすさ
M:具象M:具象	17	0.42	0.32	0.21
M:その他提喩	10	<u>1.07</u>	0.31	0.43
M:具象M:具象	17	0.42	0.32	0.21
M:その他M:その他	10	0.56	<u>0.51</u>	0.38
M:その他M具象	8	0.47	0.48	0.21
M:具象慣用	6	<u>-0.20</u>	<u>-0.09</u>	<u>0.72</u>
M:擬人M:その他	5	0.45	0.43	0.25
M:その他M:その他	10	0.56	<u>0.51</u>	0.38
2結合以上の総計	128	0.58	0.43	0.45

5.5 「比喩性」への指標の影響

表4から、「擬人」化（用例は5.1節のcを参照）のような、比較的比喩表現であると指摘されれば納得しやすいと考えられる種類の隠喩表現で、「比喩性」の認識における指標の有用性が考えられる（+0.51）。「擬人」化の要素結合は、表3では取り立てて「比喩性」が高いという評定が得られていないことから、指標が「比喩性」の認識に影響していると言えよう。

反対に、「慣用」表現（例：「施策の目玉」「機運を背景」など）は、指標がない結合そのものが慣用的であるために、指標の有無というよりも、用例文中では「比喩性」の意識されない可能性が高く、「比喩性」が下がる（-0.17）傾向となっている。同様に、「具象」化（用例は5.1節のdを参照）は、慣用表現とまでは言えないものの概念的慣用的な用例が多く、指標の有無によって「比喩性」に変化は見られなかった（+0.01）。用例数は少ないが、「具象」化と逆転的な「抽象」化でも同様の傾向が見られている（-0.01）。

5.6 「新しさ」「わかりやすさ」への指標の影響

表4において、「擬物」化（+0.46）、「擬人」化（+0.39）などで、用例全体（指標がある）の「新しさ」が高い評定となる傾向が見られた。指標や文脈的な表現によって、比喩表現であるということに気づく可能性が

ある。数は少ないが、「抽象」化 (+0.76) も新しさが高く評定されている。(9)は、「良い旅をしたようだ」という現実的な表現が文脈に見られるため、「老婆の顔が詩となる」という該当部分の新しさが際立ったものと考えられる。(9)中における既存の指標比喩要素は「となる」であるが、該当部分が比喩表現であるとして機能する「何らかの言語形式」は、指標とされる要素に限定されていない可能性がある。

(9) 老婆の顔が詩となる (中略) 良い旅をしたようだ

比 : 3.39, 新 : 2.84, わ : 2.05

[結合:老婆の顔が詩]

比 : 3.10, 新 : 1.95, わ : 0.85

(サンプル ID : OY14_12372)

また、(10)のように、結合のみでは比喩表現であることの記述が困難な場合、結合に指標要素「よう」が加わっているため、文脈によって「新しさ」が感じられるという評定になった例がある。このほかにも、特に「新しさ」が文脈によって高く評定されたと考えられる例では、結合中に指標要素の含まれる場合が散見され、結合部分の記述のみでは、比喩的な結合ではなく、例示として読まれた可能性が考えられた(一般的に比喩指標と認識される要素が含まれる表現は、比喩表現でなくとも「比喩性」が高く評定される傾向がある。表3の「その他」を参照)。そのため、用例文脈に含まれる「何らかの言語形式」が比喩表現であるという認識に影響を及ぼし、「新しさ」が高く評定されたと考えられる。

(10) 私はすぐ先の納屋に向かって蹣跚と足を運んだ。
人が見たら糸操りの人形のような歩きかただったろう。

比 : 4.43, 新 : 2.57, わ : 3.47

[結合:糸操り人形のような歩き方]

比 : 4.70, 新 : 1.25, わ : 3.75

(サンプル ID : PN2a_00017, 擬物化)

また、「わかりやすさ」については、表4で「擬人化 (+0.68) と「その他の転換」(+0.54) で、用例全体(指標がある)のほうが高い評定となっている傾向がわかる。

「擬人」化は「比喩性」や「新しさ」においても指

標のあることが評定値に影響を及ぼす傾向も見られているため、結合のみでは表現が不十分な例が多い可能性もある。(11)は、特に結合のみの「わかりやすさ」が低く評定されていた例である。用例全体では「そう」のような指標のほかにも、「電球にかざすときらきら〜光り」という具体的な文脈が得られるため、情景の説明が得られることにより、比喩的な結合のみの「わかりやすさ」よりも高く評定されたのであろう。このように「わかりやすさ」が高い表現は、「比喩性」も高く評定される場合、「わかりやすさ」によって比喩表現であることが認識されやすくなる可能性も考えられる。「比喩性」の認識に有用な表現としては、指標要素に限らない広い文脈の影響を「何らかの言語形式」として考慮する必要があるといえる。

(11) コップに半分そそがれた液体は、電球にかざすときらきらしあわせそうに光り、

比 : 3.28, 新 : 3.03, わ : 3.06

[結合:液体がしあわせ]

比 : 2.50, 新 : 2.60, わ : 0.75

(サンプル ID : PB39_00023, 擬人化)

「その他の転換」は、いずれも体(気体と液体など)や感覚(聴覚から触覚など)、動植物間など、「擬人」化のように喩辞と比喩辞の間に大きな転換が見られない例である。(2)の「一万円札(お金)」と「宝物」、「ミモザ」と「梅」のようなほぼ同種に近い例など、提喩に近い例も多い。このような「M:その他」と分類された転換は、表3で935件中303件(32.4%)と、直喩の用例では出現割合が高いという特徴があるものの、比喩全体においてはそれほど頻度の高い種別ではなく、新聞の比喩表現調査でも8.3%(加藤, 2020 [10])にとどまる。そもそも小さな転換であるために、比喩表現であることを示し、「比喩性」を明示する指標が使われやすい傾向にあると考えられる。そのため、指標が用いられる場合に「わかりやすさ」の評定値が上昇するのであろう。

6. 考察

指標の有無による評定差は平均的に大きなものではなかったが、指標を含む用例全体もしくは、用例中に複数の結合が見られる場合に「比喩性」の上がる傾向が確認される。とはいえ、比喩の指標として機能する「何らかの言語形式」は複雑であり、結合が複数含ま

れる用例中の指標数を明確にとらえることも困難であった。しかし、結合の種類別に用例全体と結合のみの評定差を見ることで、比喩性の把握における指標の有用性が、比喩表現に含まれる比喩的な要素の結合の種類によって異なる傾向が明らかとなった。

「擬人」化のような一般的に認識しやすいと考えられる結合であっても、指標が比喩表現の認識に関わっている可能性が考えられる。比喩表現であると認識する際、結合そのもののみならず、文脈的な「何らかの言語形式」による把握がなされる例がある。このことは、反対に、「慣用」的な比喩表現が用例文中ではむしろその「比喩性」が意識されない可能性が高いため、かえって結合のみ（指標がない隠喩形式）で提示されると「比喩性」が高く評定されるという結果にも表れている。

また、いわゆる「よう」「みたい」などの既存の指標比喩要素に留まらない、用例全体としての「何らかの言語形式」の影響が見られたとも言える。当該表現の「比喩性」が広く前後の表現から認識される場合に「新しさ」があると認識される例や、「比喩性」の気づきに関わる「わかりやすさ」の認識が前後の説明を求める例などから、比喩指標は一般的に指標比喩とされる要素に限定的なものではなく、広く取得されるべきものであり、比喩性の把握に関わるものと言えよう。

7. まとめ

本稿は、受容主体たる読み手が表現の比喩性を認識する際、比喩的な言語単位の結合と、指標となる言語形式のいずれが有用なのかを明らかにすることを目指し、どのような「何らかの言語形式」とどのような要素結合が、比喩性の認識に影響しているのかを調査した。そこで、比喩（直喩）の指標が「よう」に代表されるいわゆる比喩指標要素に限定的ではない可能性を考え、既存の何らかの指標要素と、比喩的な言語単位の結合のどちらをも含む用例文全体を、指標比喩ととらえた。

比喩的な要素の結合と、用例全体の比喩性の評定を調査した結果、平均値ではいずれの評定値も指標が有る用例全体のほうが高い傾向はあったが（表1）、大差が見られたのではない。用例は複数の結合を含むことがあるため、複数結合の影響も確かめた。この結果（表2）、結合というよりも複数の比喩表現が含まれると明示されるために比喩性の評定が上がる、あるいは指標が少ないことによって比喩表現として認識されない可

能性などが見られた。比喩的な結合の数が比喩性を高めるというのではなく、文脈や言語形式の影響が強いと考えられた。

また、比喩的な要素の結合の種類が、指標の有無に関わっている可能性を考え、結合の種類別に、言語形式の有無が比喩性の評定とどのように関わるのか分析した（表3,4）。結合の種類により、指標の有無による評定差が異なっていた。これらの結果からは、比喩的な言語単位の結合のみが有用なのではなく、周辺文脈を含む広い言語形式の影響が確かめられた。特に、いわゆる指標要素ではない、前後の表現や文脈的な説明が、比喩性の認識に関わっていることから、比喩用例を用いた分析が求められよう。

今後、広く比喩性の把握に有用な「何らかの言語形式」の整理を進める。本稿の調査でも取得された、当該比喩表現が比喩表現であるとの認識に関わると考えられた手がかり句の収集と整理を進め、大規模な比喩表現収集にも応用したい。

参考文献

- [1] 中村明 (1977). 『比喩表現の理論と分類』 国立国語研究所報告 57, 秀英出版.
- [2] 加藤祥・浅原正幸 (近刊). 「比喩表現の指標となる「同一性否定」の手がかり句」 認知言語学会第21回全国大会発表論文集.
- [3] Kikuchi, R., Kato, S. and Asahara, M. (2019). Collecting figurative expressions using indicators and a semantic tagged Japanese corpus, 15th Int. Cognitive Linguistics Conference.
- [4] Chiappe, D. and Kennedy, J. M. (2001). Literal bases for metaphor and simile. *Metaphor and Symbol*, 16, 249-276.
- [5] 楠見孝 (2005). 「心理学と文体論：比喩の修辞効果の認知」 中村明ほか (編) 『表現と文体』 明治書院, pp.491-501.
- [6] 岡隆之介, 大島裕明, 楠見孝(2019) 「比喩研究のための直喩刺激—解釈セット作成および妥当性の検討」 『心理学研究』 90(1), pp.53-62.
- [7] Gibbs, R. W., Jr. (2017). “Metaphor wars: Conceptual metaphors in human life”. Cambridge University Press.
- [8] 小松原哲太 (2016). 『レトリックと意味の創造性: 言葉の逸脱と認知言語学』 京都大学学術出版会.
- [9] Kato, S., Nishiuchi, S. and Asahara, M. (2020). A quantitative evaluation of Japanese figurative expressions with multiple metaphor indicators. UK COGNITIVE LINGUISTICS CONFERENCE 2020.

- [10] 加藤祥 (2020). 「日本語比喩情報付与コーパスの作成と新聞における比喩実態調査の試み」松本曜教授還暦記念論文集刊行会 (編) 『認知言語学の羽ばたき— 実証性の高い言語研究を目指して —』開拓社, pp.144-159.

資料

現代日本語書き言葉均衡コーパス (国立国語研究所)

https://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/

コーパス検索アプリケーション「中納言」1.1.0, 短単位データ 1.0, 長単位データ 1.0

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>

Yahoo! クラウドソーシング

<https://crowdsourcing.yahoo.co.jp/>